

1 本計画の目的等

■ 目的

J R山陰本線を基軸とする3市町(綾部市、南丹市、京丹波町)を一つの計画区域として基幹交通(J R山陰本線と基幹交通バス)と区域内交通(地域内のバスやタクシー等)からなる公共交通ネットワークの再構築を目指し、平成29年3月に「J R山陰本線(園部～綾部)沿線地域公共交通網形成計画」(以下、網形成計画)を策定しました。

本計画は、これまでの事業・施策の実施結果や網形成計画の基本方針を踏まえ、今後の公共交通のあり方を再検討し、近年の社会情勢変化に対応した持続可能かつ地域にとって望ましい公共交通体系を構築するため、まちづくり等と連携した公共交通の次期マスタープランとなる「J R山陰本線(園部～綾部)沿線地域公共交通計画」を策定します。

■ 計画区域

本計画の対象となる区域は、綾部市、南丹市、京丹波町の2市1町からなる地域とし、その中でも、J R山陰本線の園部駅～綾部駅間に関連する区域とします。

綾部市 山家地区及び上林地区

南丹市 船岡駅以北の地域
(旧日吉町、旧美山町、旧園部町の旧川辺小学校区)

京丹波町 全域



■ 対象とする交通

- 鉄 道：JR山陰本線(園部～綾部間)
- バ ス：西日本ジェイアールバス 園福線
京阪京都交通(計画区域内を運行する系統)
あやバス 上林線、於見市野瀬線
南丹市営バス 全系統(計画区域内を運行する系統)
京丹波町営バス 全系統
- 個別輸送：スクールバス、デマンドバス(南丹市)、福祉有償運送、タクシー

■ 計画期間

おおよそ10年後(令和13年度)の将来を見据えつつ、令和4年度から8年度までの5年間の計画とします。

■ 計画の位置づけ

本計画は、3市町や京都府の総合計画やまちづくりに関する計画と連携・整合を図り、地域の公共交通のマスタープランとして位置づけます。

3市町の総合計画・関連計画
京都府の広域計画・関連計画

JR山陰本線(園部～綾部)沿線
地域公共交通計画

<各計画の政策の方向性>

- ・ 出産・子育て環境の充実
- ・ 産業の創生や基盤強化による地元雇用の確保
- ・ 人・地域の交流を支える拠点・ネットワークづくり
- ・ 観光交流の推進
- ・ 暮らしの安全と安心の確保
- ・ 次代を担う人材育成

2 地域の公共交通等の問題点及び課題点

地域の問題点

地域公共交通等の課題

や都市人口構造等

若い世代を中心に、人口減少や他地域への流出が発生

公共交通が不便な地域などで、後期高齢者割合が増加

生活関連施設の立地は、駅周辺ではなく旧市街地や国道沿道に集中

自動車利用が前提となった生活・観光スタイル

公共交通

公共交通利用者数の減少により公共交通の維持・存続が困難

鉄道駅での交通結節機能が弱い、駅機能以外の施設が少ない

園部駅～綾部駅間の鉄道のサービスレベルは高くない

通学先の多様な選択ができない地域もあり、通学手段として利用しにくい

高齢者の潜在的ニーズは高いが、公共交通を使った買い物や通院が困難

公共交通を使った観光が困難

地域からの声

住民 住民アンケート調査実施中
地元意見交換会等 企画

利用者 駅利用者アンケート調査
企画

事業者等 交通事業者等関係者へのヒアリング調査
企画

通勤・通学交通に関する課題

自宅や最寄り駅からの広域の通勤・通学ができる公共交通網の整備と利便性の向上

日常生活交通に関する課題

地域内や3市町間を相互移動ができる公共交通の整備

地域内交通のサービスレベルの維持(外出するための移動手段の確保)

交通結節機能の強化や駅を中心とした賑わいの創出など、日常的に公共交通を利用してもらうための整備・拠点づくり

公共交通利用への転換と外出機会を拡大する取組

自動車の運転が困難になる高齢者の増加を見据えた移動手段の確保や安全な交通環境の充実(自動車に依存しない外出行動への転換)

観光・交流交通に関する課題

周遊観光にも適用できる、鉄道と地域内交通の総合的なサービスの提供

公共交通による移動方法の周知

初めて訪れる観光客や外国人観光客に対応した案内方法など、利便性の向上

3 地域の将来像と基本方針

目指すべき地域公共交通の将来像

安全安心で豊かな暮らしを支え、交流・定住・まちづくりを進める公共交通の実現

- 基本方針 1** JR山陰本線（園部～綾部）を中心とした公共交通サービスの改善を進め、利用者数増加や鉄道複線化につなげる
- 基本方針 2** 日常生活の拠点となる施設や公共交通の乗継拠点となる鉄道駅・バス停等の整備を進め、それらのネットワーク化を図る
- 基本方針 3** 自動車を運転できなくても安心して生活できるように、買い物や通院等が可能となる公共交通サービスを実現する
- 基本方針 4** 公共交通を次世代に残すために、地域の関係者が協働し、支え育む活動を進める
- 基本方針 5** 地域内や地域間の交流促進に向けて、分かりやすく使いやすい施設整備を進める

将来像を踏まえた沿線地域の公共交通ネットワーク



4 計画目標と目標を達成するために行う取組の概要

基本方針①

目標① 広域への通勤通学も可能な公共交通サービスの維持・確保

数値目標 通勤通学可能エリア拡充／人口あたり通勤通学定期利用者数

- ① JR山陰本線のサービスレベルの維持・向上
- ② 高校生の帰宅時間帯に運行する移動手段の導入

目標② シームレスな移動が可能となるサービスの提供

数値目標 (検討中)

- ③ 3市町内をシームレスに移動できる仕組みづくり
- ④ 交通系ICカードシステムの導入
- ⑤ 公共交通同士の乗継状況の改善

基本方針②

目標③ 快適な公共交通結節点

数値目標 整備拠点数（4つの機能の整備）

- ⑥ 高校生の利用の多い駅での交通結節機能の強化
- ⑦ 高齢者の利用の多い駅やバス停での交通結節機能の強化
- ⑧ 女性が安心して滞在することができる交通結節点の整備
- ⑨ 長時間待っても楽しめる交通結節点の整備
- ⑩ 公共交通のリアルタイム情報の提供

基本方針③

目標④ 主に昼間時間帯の地区内移動の維持・確保

数値目標 人口あたりのバス利用者数

- ⑪ あやバス、南丹市営バス、京丹波町営バスの運行内容の見直し
- ⑫ 高齢者の帰宅時間帯（主に夕方）に運行する移動手段の導入
- ⑬ 買い物や通院が公共交通で困難な地域での移動手段の導入や支援（空白地不便地域での対策）
- ⑭ 週末のサロン活動や朝市活動場所への移動手段の導入

基本方針④

目標⑤ 自動車を運転できなくても安心して移動できるサービスの提供

数値目標 公共交通等の利用率／タクシーの利用者数

- ⑮ 子育て世代に対する運賃支援
- ⑯ 運転免許証の自主返納への支援

基本方針⑤

目標⑥ 地域全体で公共交通を支え育む意識の醸成

数値目標 公共交通等の利用率

- ⑰ モビリティ・マネジメントの実施
- ⑱ 地元住民や関係者との懇談会の実施

目標⑦ 使いやすい分かりやすい情報提供

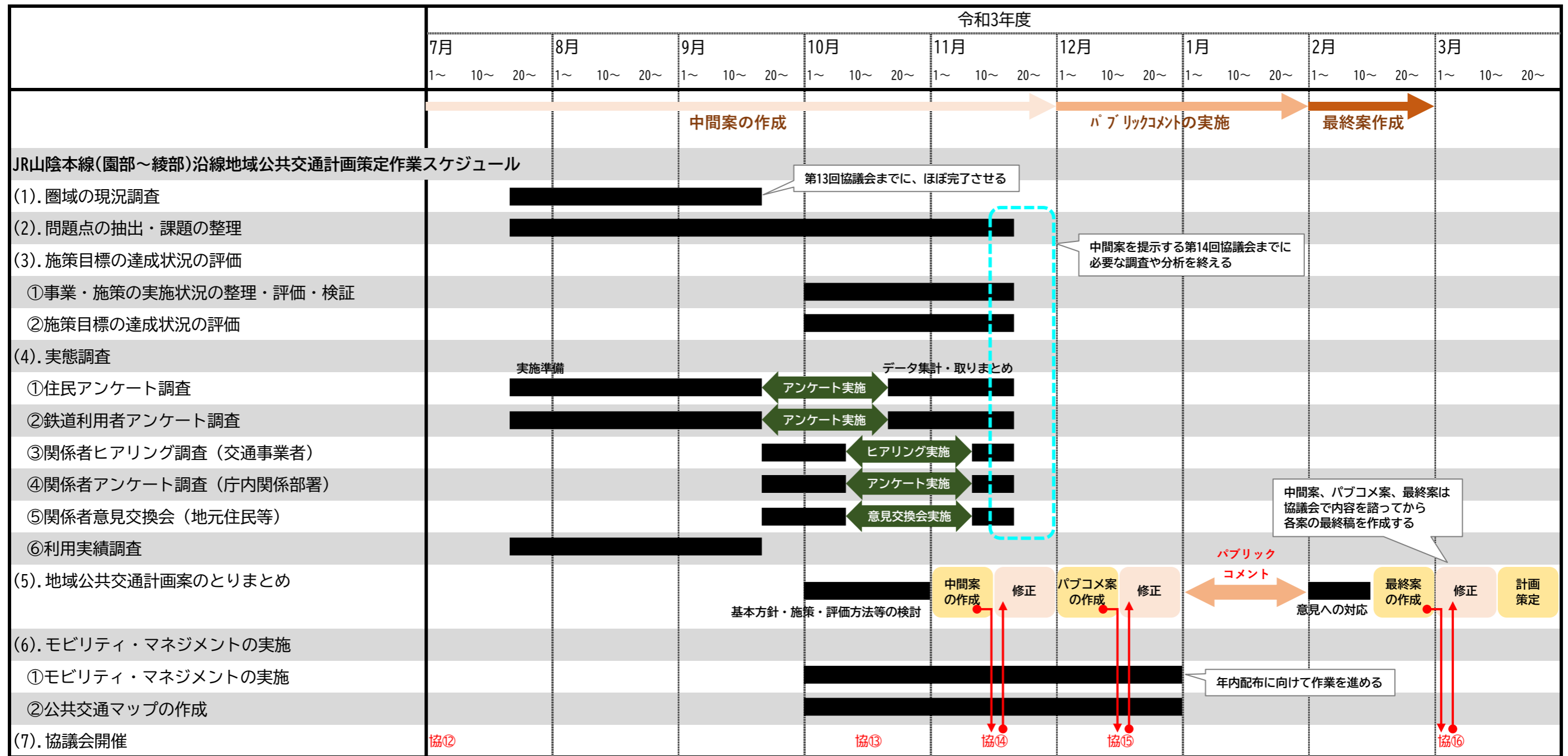
数値目標 観光入込客数／情報のオープン化

- ⑲ 体系的な観光情報・公共交通情報の案内
- ⑳ 訪日外国人向けの多言語化

目標⑧ 若い世代の外出機会の創出（交流促進）

数値目標 週末や休校期間中の公共交通利用者数

- ㉑ 若い世代が京都まで遊びにいける交通手段の導入
- ㉒ 学校の夏休み期間中に、地域内を散策できる運賃施策の導入



第13回協議会までに、ほぼ完了させる

中間案を提示する第14回協議会までに必要な調査や分析を終える

中間案、パブコメ案、最終案は協議会で内容を詰ってから各案の最終稿を作成する

パブリックコメント

意見への対応

年内配布に向けて作業を進める